

島根県におけるクリの適地について

倉橋孝夫

摘要

島根県におけるクリの適地を明らかにするために、県下各産地から 43 か所のクリ園を選び、土壌型別に実態調査を行った。

1. 土壌の理学的性質は黒色土が最も優れ、次いで、褐色森林土であり、未熟土は劣った。特に未熟土の下層土は非常に堅密であった。土壌の腐植、全窒素含量は黒色土が最も高く、次いで褐色森林土であり、未熟土は低かった。褐色森林土では、乾性から湿性の土壌型になるにつれて腐植、全窒素含量が高くなる傾向にあった。

2. Bd と Be 及び黒色土のクリの生育は、Bb、Bd(d) 及び造成地より明らかに優れた。Bd、Be と黒色土の収量は Bd(d) の 1.5? 2 倍、Bb と造成地の約 3 倍と多かった。

3. 2~3 層目の細根重は黒色土と Be 及び Bd が多く、Bd(d) と Bb 及び造成地は少なかった。

4. 褐色森林土の Bd と Be 及び黒色土は土壌の理化学的条件が良いために、細根の発達が優れ、クリの生産力は高く、クリの適地と考えられる。それに対し、褐色森林土の Bb、Bd(d) 及び造成地は土壌の理化学的条件が不良なため、細根の発育が悪く、生産力は低く、不適地と考えられる。